

## 2021 コレクション展[歴史]

# 床の間動物園 I

2021年3月13日(土)-5月23日(日)

豊橋市美術博物館2階第2展示室

東洋画の伝統的な画題は、おもに人物画・山水画・花鳥画に分類できます。花鳥画は文字通り花や鳥を描いたものですが、動物・昆虫・魚・果物・野菜などのあらゆる生物を対象としています。日本では、江戸時代中期に沈南蘋(しん・なんびん)がもたらした写実的な花鳥画が広まり、後世の画家にも影響を与えました。

花鳥画には「葡萄に栗鼠」など、特定の植物と動物を組み合わせた定型的な画題が多く、それぞれ子孫繁栄・立身出世といった願いや意味が込められています。また、主人の威厳を高めるもの、見る者の心をやわらげるものなど、その空間に及ぼす効果も多様です。

動物たちの絵をたくさん飾れば、そこはまるで動物園。今回は第1期として、鳥が描かれた掛軸・屏風・杉戸絵を紹介します。

### 第2展示室

No.	作者名	作品名	制作年	材質・形状	数量	法量(cm)
1	太田山陰	喬松僊羽図	江戸時代	絹本着色・軸装	1幅	111.3×47.4
2	恩田石峰	鶴図	弘化2年(1845)	絹本淡彩・軸装	双幅の内	99.0×36.4
3	稲田文笠	白鷹図	江戸時代後期	絹本着色・軸装	1幅	105.8×41.5
4	恩田石峰	群雀図(右隻)	江戸時代後期	紙本着色・屏風	六曲一双の内	157.5×333.0
5	渡辺小華	蓮池白鷺之図	明治8年(1875)	紙本墨画・軸装	1幅	136.2×76.5
6	渡辺小華	竹下双鶏図	明治4年(1871)	絹本着色・軸装	1幅	110.4×50.2
7	疋田芳沼	孔雀図	大正～昭和初年	絹本着色・軸装	1幅	114.0×42.5
8	正甫	鶉図	江戸時代中期	絹本着色・軸装	1幅	26.8×40.0
9	稲田文笠	鶉朝顔図	江戸時代後期	絹本着色・軸装	1幅	96.0×26.8
10	渡辺崋山	寓絵堂日録	文化14年(1817)	紙本墨画淡彩・卷子	1巻	30.2×1090.0
11	原田圭岳	松に鶴図	明治10年(1877)	板地着色・杉戸	3枚	各175.0×91.0
※	原田圭岳	鶴図	明治8年(1875)	板地着色・杉戸	4枚	各175.0×91.0
※	原田圭岳	松に鷹図	明治14年(1881)	板地着色・杉戸	4枚	各175.0×113.0

※はシンボルコーナーにて展示